

一・二・が過去の因、三・く十・が現在の果であり将来の因となり、十一・十二・が将来の果

一・無明 (無知：avidyaa)

(Ignorance)

過去世の無始の煩惱。煩惱の根本が無明なので代表名とした。『わたし』は幻想であり、死は再生である。

二・行 (潜在的形成力：saMskara)

(Compositional Action or Karma)

過去世の煩惱によって作った善悪の行業
その幻想を元に行動してしまう。

三・識 (識別作用：vijjaana)

(Consciousness)

母胎中に受胎した刹那の五? (色受想行識で身体と精神との結合体としての個体)
その体験を元に判断し、認識する。

四・名色 (心身：nama - rupa)

(Name and Form)

胎中において身心の発育する位。
名付けることで、実体を想定してしまう。

五・六処 (六感覚器官：SaD - aayatana)

(Six Sense Spheres)

胎中において眼耳鼻舌身意の六つの感官が備わり、母体を出ようとする位。

感覚器官(眼耳鼻舌身)の情報を真実と思う。

六・触 (接触：sparSa)

(Contact)

生誕後しばらくの間のこと。事物に関して苦楽を識別することなく、ただ事物に触れて感知しようとする位。

感覚対象(色声香味触)を妄信する。

七・受 (感受作用：vedanaa)

(Feeling)

苦楽捨といわれて苦をいとい楽をよろこぶような心の生起する位で性を求めるまでの位をいう。
それは脳に感受された電気的信号に過ぎない。

八. 愛 (渴愛：TRSnāa)

(Craving)

性欲を起こし、異性を求める位をいう。

幻想の世界(サンサーラ)を渴愛してしまう。

生の刹那(=識)から受の位までを老死という。生老死は前の識名色六処触受の五位をさすことになる。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』他

九. 取 (執着：upadaana)

(Grasping)

自分の求めるもののために馳求する位。

すべてを(お金のよう)に独占したくなる。

十. 有 (存在：bhava)

(Existence)

未来の生活や環境を結果する行為によって業因を積集する

位で人間一般の生存をいう。

独占欲が再生のカルマに影響する。

十一. 生 (出生：jaati)

(Birth)

前の業因によって結果した未来の生存をいう。

六道輪廻を再生してしまう。

十二. 老死 (老ごと死：jaraa - maraNa)

(Again and Death)